北海道稚内市・株式会社ANA総研 & 早稲田大学
地域連携ワークショップ 2022

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、観光・・自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型 ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 観光消費の切り口から人口減少・地域経済を考える機会が得られます。
- ANA 総合研究所は、航空会社 ANA で培ったノウハウを結集し地域活性化支援事業に取り組んでいます。ワークショップでは、自治体・地域住民からのお話だけではなく ANA 総研からの指導や協働の機会があります。
- グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。

テーマ

北宗谷（稚内市・礼文町・利尻町・利尻富士町）の周遊を通じて、観光消費額の最大化を目指す

北海道最北のまち・稚内。市では「日本のてっぺん」を活かした魅力ある観光地づくりを精力的に進めています。

人口減少が進む稚内市では、この減少を食い止めるため、市として、これまでに様々な取組を行ってきましたが、現状は歯止めをかけられておらず、地域経済の活力が失われつつあります。

そこで、秀峰・利尻山が見える地域が行政区域を跨いで連携し当地域を訪れる旅行者に対して、この地でしか味わうことができない「五感を癒す感動体験」を提案することで、地域内の観光消費を増加させようと本年４月、稚内市・礼文町・利尻町・利尻富士町の１市３町で地域連携 DMO（観光地域づくり法人）を立ち上げました。

本ワークショップでは、フィールドワークやヒアリングを通して域内の魅力や課題に触れ、ワカモノ・ヨソモノの視点からみた「稼げる」地域づくりや観光客に選ばれるまちづくりに関する施策を提案いただき、今後、DMO が行う各種課題の解決に向けた取組に活かしていきたいと考えています。

稚内市の魅力

稚内は、江戸時代の貞享２年（1685 年）に松前藩が現在の宗谷に藩主直轄の知行地（宗谷場所）を開設したのが始まりと言われ、以来、交易の場として、また北方警備の要所として栄えてきました。

現在では、豊かな海や広大な大地で育まれた良質で安心・安全な食、利尻礼文サロベツ国立公園や宗谷丘陵といった雄大に広がる自然、風力をはじめとした多様なエネルギー資源など、数多くの魅力と豊富な資源を活用して、コロナ前には、年間約 50 万人の旅行者が訪れる観光都市です。また、稚内、特に宗谷岬は、最大風速が 10m/秒以上の強い風が吹く日が年間 220 日以上と“風のまち”でもあり、夏でも 20 度前後と冷涼な気候であることから、避暑地として、この地を訪れる方も多くいます。

募集概要

募集期間	2022 年 6 月 3 日（金）～6 月 17 日（金）17：00 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	**原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと**
募集人数	2 チーム（10 名程度）
応募方法	**事前説明会（オンライン）について【要申し込み】** 日時：6/7(火)、6/8(水)、6/9(木)、6/10(金)、6/13(月)、6/15(水) 12:20～12:40（全日程） ※申し込み方法などの詳細は、Waseda メールもしくは Web ページ上でのご案内に記載しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記 6 日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※事前相談会（12:40～13:00）も上記の日程で実施します（参加は任意です）。 （説明会出席後）**以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から申請してください。** ① MyWASEDA の「お知らせ一覧」から「地域連携ワークショップ 2022 夏編」を検索 ②「地域連携ワークショップ 2022 夏編応募フォーム」から「申請」をクリック ③ 必要事項（志望理由 400 字程度）を入力して申請
選考方法	書類選考：結果通知は**2022年6月27日（月）12:00までにWasedaメール**にて通知します。 ※面接選考（オンライン）を実施することがあります。その際は対象者に別途ご案内します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、北宗谷地域（稚内市・礼文町・利尻町・利尻富士町）内、ANA 施設（港区、大田区）となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ 【重要】フィールドワークへの参加にあたっては出発前に PCR 検査等を受検し、結果を提出いただく必要があります。受検方法、スケジュール等は参加者にご案内します。 ⑤ **新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては対面でのイベント（オリエンテーションやフィールドワーク等）がオンラインでの実施に切り替わる可能性があります。**その場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑥ 参加にかかる費用（活動地までの交通費、フィールドワーク期間中の食費、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費など）は参加者による実費負担です。**うち、現地フィールドワークまでの航空券と（往復）宿泊先（4 泊分）はＡＮＡ手配とし、一人 50,000 円を徴収します。支払方法については、オリエンテーションでご案内します。また、地域内の移動については、自治体公用車を予定（費用負担なし）**。なお、WSC メンバーズ基金（WASEDA サポーターズ倶楽部）からの支援により、5,000 円～10,000 円が補助されます（金額はワークショップ開始時にご案内します）。 ※一般的な航空運賃の目安（ご参考・片道）：羽田空港～稚内空港（40,000 円前後） ⑦ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑧ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑨ 早稲田大学の学生補償制度に加入いただきますが、新型コロナウイルスは補償の対象外となります。 ⑩ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、**公欠扱いとはなりません。** ⑪ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。
問合せ先	教務部教育連携課（rbso@list.waseda.jp） ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	2022 年 7 月 12 日（火） 14:00～16:00	・参加者顔合わせ ・自治体、ANA 総研担当者からの説明 ・課題および課題設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認 ・事前調査の内容説明
②	交流会 @早稲田大学	7 月 15 日（金） 18:15～19:45	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認
③	事前調査期間	オリエンテーション ～フィールドワーク	・北宗谷地域やテーマに関する調査／情報収集を行い、チームとしての仮説を立てる ・ヒアリングに関する事項（ヒアリング希望先、質問内容など）をチームで検討し、8 月 1 日（月）までに自治体へ提出する ・授業や試験／レポート対応の合間でグループワークを実施し、議論を深める
④	オンラインヒアリング （@Zoom）	8 月 2 日（火） ～8 月 10 日（水）	・事前調査やフィールドワークでの活動をふまえ、提案に必要となる情報収集や仮説検証に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください
⑤	フィールドワーク @北宗谷地域	8 月 18 日（木） ～8 月 22 日（月） 【4 泊 5 日】	・北宗谷地域内の観光施設などを訪問 ・市長をはじめ、地域のキーパーソンの方々へのヒアリングを実施
⑥	ANA Blue Base 見学	8 月 25 日（木） ~~13:30～18:00~~ 9:00～18:30 (6/8 変更)	・ANA グループ安全教育センター見学 ・ANA Blue Base（大田区羽田）見学 ・ANA 機体工場見学（6/8 追加）
⑦	中間報告会 @早稲田大学	8 月 30 日（火） 14:00～16:00	・提案内容の報告を行い、参加者からフィードバックをもらう ・自治体・ANA 総研担当者、大学職員が参加予定
⑧	プレ報告会 @早稲田大学	9 月 7 日（水） 14:00～16:00	・最終報告会に向けた進捗確認／発表練習 ※進捗状況によっては左記日程に追加で実施する場合があります。
⑨	最終報告会準備・ 追加調査期間	中間報告会 ～9 月 13 日（火）	・中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえたブラッシュアップ ・提案の再検証（必要に応じて追加のヒアリングを実施。その場合のヒアリング期間は 9 月 7 日（水）～9 日（金）とします。）
⑩	最終報告会 @早稲田大学	9 月 14 日（水） 14:00～16:00	・市長など自治体関係者や ANA 総研役員、地域住民の方々（オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施するため、解散時刻は 17:00 頃となります。

※公式以外の日程は必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的に集まる日程やオンラインでの会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
  ↓
- 事前調査：
  個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
  課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
  どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
  ↓
- 現地調査・ヒアリング：
  自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
  ↓
- 最終提案資料作成：
  現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
  ↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声 ※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から**「学生だから変えられる」という経験**ができました。（社会科学部 1 年）
- **インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかる**ことがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）**机上の空論でない地方創生とは何か**を学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）**ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさ**を体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができたし、**意見を出すことの躊躇いがなくなりました**。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して**相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さ**を学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、**行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的**でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、**その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にある**と強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）